

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」中間評価結果表

研究領域等	地域のアイデンティティーの解明—相互理解を深めるために—
研究課題名	中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係の模索
責任機関	東京外国語大学
研究代表者	酒井 啓子（地域文化研究科・教授）
研究期間	平成18年度～平成22年度
主に研究対象とする国名	（湾岸諸国（イラン、イラクを含む））（アフガニスタン）（イスラエル／パレスチナ）

1. 総合評価

- A. 研究を継続する。
 B. 研究計画を一部見直しの上、研究を継続する。
 C. 研究計画の大幅な見直しをした上で、研究を継続する。
 D. 研究を終了する。

〔コメント〕

本研究課題は、政策や社会の要請に応える観点からは、（１）日本における中東認識、中東における日本認識を調査・分析し、（２）日本社会において必要とされる知識・情報のニーズを把握し、（３）日本と中東の間の認識の溝を埋めて、新しい地域概念を創出することによって、（４）あるべき共生関係の構築を目指した研究であると位置づけることができる。また、学術的な観点からは、（１）学術的な知識・情報に加えて、メディアやNGOに蓄積されている現地に関する知識や情報を総合し、（２）中東・西アジアにおける紛争や復興・開発支援等についての新たな知見を獲得し、（３）さらにそれらの情報の処理・発信の方法を開発することを目指した研究であると位置づけることができる。

具体的な研究活動としては、（１）「中東カフェ」を通じた社会ニーズの把握、学術・メディア・NGOなどの交流、社会的情報発信を行い、（２）日本社会における中東認識の実情の把握に努めつつ、（３）日本に在住する中東・イスラーム圏出身者との交流を推進し、（４）中東・西アジアの紛争などの調査研究を行い、（５）日本と中東の文化・社会交流について考察を深めてきており、その際、研究代表者を中心とする学術的・社会的ネットワークを活用して、広範な専門家の参加を得ている点に特長がある。

以上を踏まえ、本研究課題については日本側のニーズについて適切に応え、また、研究対象地域のニーズについても配慮しながら研究活動が行われていると評価できる。その一方で、研究グループによって活動の進展に差が出ているように見受けられ、今後は、進展に遅れが出ている部分をキャッチアップするよりも、既に成果が出ている面に、より積極的に資源を投入することで優れた成果につながると思われる。また、「中東カフェ」についても、極めて独創的で、優れた試みであると評価できることから、さらにそのポテンシャルを現実化し、「中東カフェ」に基づく独自のホームページを含めた一層効果的な社会発信のツールとして発展させる方法について検討を進めることが望まれる。

2. 項目ごとの評価

(1) 本事業の目的及び研究領域等の趣旨に合致した研究が実施されているか。

- () A. 十分実施されている (○) B. 概ね実施されている
() C. あまり実施されていない () D. 実施されていない

〔コメント〕

本事業は、我が国との関係で重要な地域について、現在の政治、経済、社会制度等とその背景となる思想、文化、歴史等の関係など、今後、我が国が人的交流や国際貢献を進めるために必要な社会的・政策的ニーズに基づくプロジェクト研究を実施し、成果を社会へ還元することにより、日本と地域との間の交流や協力が一層促進され、日本とこれらの地域と「共生」に資することを目的とするとともに、人文・社会科学研究の新たな展開と発展に資することを目指すものである。また、本研究課題は研究領域「地域のアイデンティティーの解明—相互理解を深めるために—」に属する研究課題である。

これまでの進捗状況については、(1) 日本における中東認識の現状及び今後進めるべき知識・情報蓄積のニーズと方向性を把握しつつ、(2) 日本在住の中東・西アジア出身者との文化・社会交流の実もあげながら、(3) 「中東カフェ」を中心として「双方向」的な社会に対する情報発信を推進してきたと評価できる。特に「中東カフェ」は、一般市民にひらかれたレクチャーと交流の場を、中東に関する学術・メディア・NGOの専門家などとともに構築し、社会ニーズの掘り起こしに努めるとともに、学術的な知と社会の中の知的蓄積の総合を図っており評価できる。

(2) 設定されている社会的・政策的ニーズに応える形で研究が実施されているか(実績の評価)。

- (○) A. 十分実施されている () B. 概ね実施されている
() C. あまり実施されていない () D. 実施されていない

〔コメント〕

本研究課題は、中東における紛争の調査・分析、復興・開発支援や安全保障などについて研究を行う中から、中東・西アジアの地域概念について新たな構想を展開する一方、情報発信については、学術・メディア・NGOの協力の在り方について調査し、情報処理・現状分析の方法を開拓し、文化・社会交流や対話を推進して、新しい共生関係を築くことを目指した研究である。

日本側のニーズについては、「中東カフェ」の試みが非常にユニークかつ大きな効果をあげており、日本における社会ニーズを満たすためにも、社会ニーズを感知するためにもきわめて有効であり、また、あるべき中東報道に資するメディアに対する発信源としても高く評価できる。

また、研究対象地域のニーズへの対応については、当該地域出身者からの参加者や、現地に詳しい日本側の専門家から、多くの知見を取り込んでいる点は評価でき、中東の人々の日本認識の調査の成果を加えていくことで、優れた成果につながることを期待される。

- (3) 社会的・政策的ニーズに応える研究成果の創出が期待できるか（将来性の評価）。
- A. 十分期待できる B. 概ね期待できる
 C. あまり期待できない D. 期待できない

〔コメント〕

本研究課題は、日本における中東認識の調査、認識を深めるための情報発信方法の開発等を行う点で大きな重要性を持っており、事業終了までに優れた成果を創出することが期待される。「中東カフェ」の役割は大きく、その成果を活用し、研究成果報告書にも盛り込んでいくことが期待される。

中東側の日本認識については、今後の調査によって成果を積み上げることが望まれる。「中東カフェ」も、これまでの成果をもとにさらに進化させ、また、ホームページなどを活用して発信をさらに強化することができれば、社会的ニーズに一層応えるものとなると思われる。

- (4) 学術的に高い水準が確保されているか。
- A. 十分確保されている B. 概ね確保されている
 C. あまり確保されていない D. 確保されていない

〔コメント〕

本研究課題は、学術的な観点からは、(1) 学術的な知識・情報に加えて、メディアやNGOに蓄積されている現地に関する知識や情報を総合し、(2) 中東・西アジアにおける紛争や復興・開発支援等についての新たな知見を獲得し、(3) さらにそれらの情報の処理・発信の方法を開発することを目指す研究であり、真摯に努力を続けていること、特に、国内や海外での成果発表に意欲的であり、内容も高い水準が確保されている点は、大いに評価できる。

他方、紛争、復興、日本の政策などについては、研究成果が目に見える形になっておらず、4年目以降に期待することも可能であるが、研究グループによって進展に差が出ている部分があるように見受けられることから、資源配分を見直して、より成果が期待できる部分に活動を集中することが有効であると思われる、学術的により高い水準の研究成果を創出することが望まれる。